

(268) 会議資料の収集と検索システム

(新日本製鐵製品技術研究所の技術情報管理について)

新日本製鐵株式会社 製品技術研究所

東松良光

○中島康男

研究開発活動に有効な情報源と考えられる会議を対象とし、その内容の検討、取扱手法および所内流通機構の確立に検討を加え、収集および検索のできる管理体制を整えた。これにより研究者は会議開催、資料の収集状況を知ることが出来るようになり、さらに遡及検索が可能となった。このような当所の会議資料収集と検索システムについて報告する。

会議は科学技術の進展にともない、開催数は激増し、研究者は自己の専門分野の会議の全てを把握し、出席することは不可能となっている。しかし研究者は会議に出席できなくとも、会議資料に対しては非常に関心を持ち、利用への要求は高く、情報担当部門で会議資料の収集、提供が必要な業務の一つとなってきた。

会議資料を収集する場合に必要なことは会議開催を知ることであり、それには監視業務を行うことである。会議情報の所内流通は研究者と情報担当部門とのコミュニケーションをより密にし、相互協力による監視体制からの収集に重点をおいた。

当所における会議案内、資料の流通機構を示すと図のようになる。

会議情報、資料を収集するため、情報担当部門では以下の監視業務を行っている。

- 1) 直接個人や研究室に送られてくる案内状の全てについて、必要事項をチェックする。
- 2) 学協会誌、専門誌などの会告、ニュース欄など必要な情報をチェックする。
- 3) 国際会議、海外の会議は会議専門の案内誌、カレンダーなどを使い必要な情報、研究者から要求のあった情報をチェックする。

会議資料の収集は、定期刊行物あるいは単行本のように契約すれば自動的に入手できるものと、会議に出席することにより入手できるもの、その他主催者から直接入手するものなどいろいろとある。

収集した資料を有効利用するため、目次のないものには目次を作成して利用の時便利にする。製本の段階では多種多様な形態の資料があるが、大半はA4の大きさに製本し、整理している。

さらに蓄積された資料が検索できるように、3インチ×5インチのカードに 1) UDC 2) Date 3) Location 4) Sponsor 5) Committee Nameなどの検索項目を記載したカードを作成し、項目別に整理しておく。

会議資料の検索システムに関しては表のように、国内学協会会議資料の検索方法は全くなく、全て自社製のカードに依って行われる。国際会議については会議の案内およびその資料案内誌が出されているがIndexが充分でなくUserの質問によって検索する場合、十分な応答が出来なかったが、検索カードを作成し、整備しておくことにより遡及検索が可能となり、効率的な利用ができるようになった。

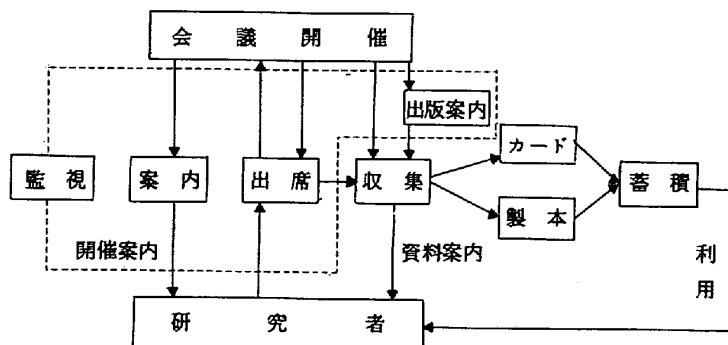


図1 当所における会議案内・資料の流通機構

表1 会議資料の検索方法

	従来の方法	当所の方法
国内学協会会議資料の検索方法	なし	カード(自社製)
国際会議資料の検索方法	冊子など	カード(自社製)